

# レベル別 日本語多読 ライブラリー

にほんごよむよむ文庫

レベル **3** vol.1 3

## かぐや姫 ひめ

おじいさんが竹の林で、光る竹を見つけた。切ってみると、そこには小さくてかわいい女の子が……。

今から千年以上前に書かれた、日本で一番古い物語だと言われて  
います。

### にほんごよむよむ文庫 ぶんこ



これは、日本語を勉強している人のための「読みもの」シリーズです。5レベルに分かれていて、昔話、創作、名作、伝記などいろいろな話があります。レベルごとに言葉や文法が制限されていて、読みやすく書かれています。漢字には全てひらがなが付いてますから、辞書を引かないでどんどん読んでみましょう。

レベル	クラス	語彙数	文字数/1話
0	入門	350	~400
1	初級前半	350	400~1500
2	初級後半	500	1500~2500
3	初中級	800	2500~5000
4	中級	1300	5000~10000

Japanese Graded Readers

レベル別  
日本語多読  
ライブラリー



にほんご よむよむ文庫

レベル **3** vol.1 **3**

かぐや姫<sup>ひめ</sup>



再話 = 高橋 宗子

挿絵 = 清水 麻衣

監修 = NPO法人 日本語多読研究会

にほんご よむよむ文庫 レベル3

かぐや姫<sup>ひめ</sup>

再話 (さいわ) : 高橋 宗子 (たかはし そうこ)

挿絵 (さしえ) : 清水 麻衣 (しみず まい)

監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんごたどくけんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。 <http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんごよむよむ文庫)

[レベル3] vol.1

かぐや姫

2006年10月10日 初版 第1刷 発行

2011年 8月30日 初版 第3刷 発行

再話：高橋 宗子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)「むじな」

作画：清水 麻衣

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美 / 山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 法人日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-626-1

にほんご よむよむ文庫 レベル 3

# かぐや姫<sup>ひめ</sup>

再話 (さいわ) : 高橋 宗子 (たかはし そうこ)  
挿絵 (さしえ) : 清水 麻衣 (しみず まい)  
監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)





むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは、毎日、竹の林に行つて、竹を切つて、かごやざるを作つていました。二人は、それを売って生活していました。

ある日、おじいさんは、いつものように竹の林の中に入つていきました。すると、何かがぴかぴか光つています。

「おや、どうして光っているんだろう」

おじいさんは、そのそばに行きました。そこには、下の方がぴかぴか光っている竹がありました。

「中に何があるんだろう」

おじいさんは、その竹を切ってみました。

すると……。

中に小さな女の子が座っていました。

「おお、かわいい女の子だ！」

おじいさんは、その女の子を家に連れて帰りました。おばあさんも、たいへん喜びました。二人には、子どもがいなかったからです。

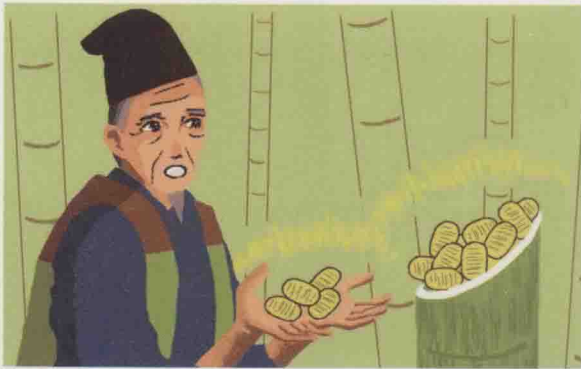
おじいさんは言いました。

「今日からこの子は私たちの子だ。かぐや姫と呼ぼう」

かぐや姫というのは、ぴかぴか光る女の子という意味です。







おじいさんとおばあさんは、かぐや姫を大切に育てました。  
かぐや姫が来てから、不思議なことが起きました。おじいさんが竹を切ると、竹の中か  
ら、たくさんのお金が出てくるのです。それで、おじいさんは、たいへんお金持ちになり  
ました。大きい家も建てました。





「おじいさん、かぐや姫は本当にかわいいですね。この子がいると、毎日楽しいですね」

「そうだな、おばあさん。疲れたときも、この子を見ると、元気になるね」

かぐや姫が来てから、おじいさんもおばあさんも、とても幸せです。

かぐや姫は、どんどん大きくなって、美しい女の子になりました。たいへん美しいの

で、かぐや姫のことを知らない人はいませんでした。

大勢おおぜいの若い男わか おとこの人たちひとが、かぐや姫ひめに会あいに来きました。家いえの周まわりにはたくさんひとの人がい  
て、いつもにぎやかひめでした。

「かぐや姫ひめを私わたしにください。結婚けっこんしたいのです」

大勢おおぜいの若者わかものが、おじいさんとおばあさんに言いいました。

でも、かぐや姫ひめは、だれにも会あおうとしませんでした。

それでも、毎日まいにち会あいにくる五人ごにんの若者わかものがいました。



五人ごにんの若者わかものは、おじいさんとお  
ばあさんに言いいました。

「かぐや姫ひめに会あいたいです」

「私わたしも」

「私わたしも」



「かぐや姫と結婚したいのです」

わたし

「私も」

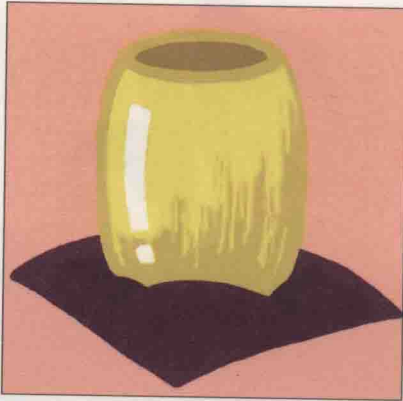
わたし

「私も」

おじいさんとおばあさんは、困  
つてしまいました。

かぐや姫は、だれとも結婚した  
くありませんでした。そこで、お  
じいさんとおばあさんに言いまし  
た。

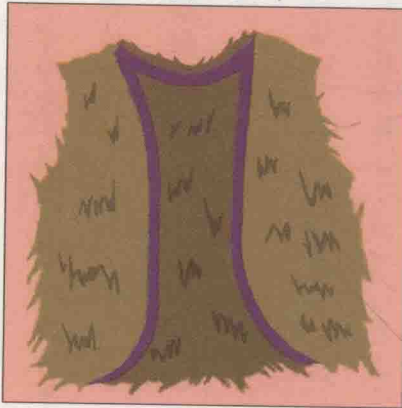
「では、その若者たちに会いまし  
よう。呼んできてください」



ほとけさま　つか　ちやわん  
仏様が使った茶碗



しんじゅ　き  
真珠のなる木



も　かわ　うわ　ぎ  
燃えない皮の上着

五人の若者が呼ばれてきました。  
かぐや姫は言いました。  
「私の欲しい物を取ってきてください。  
取ってくる事ができたら、その人と結婚します」

「あなたは『仏様が使った茶碗』を取って  
きてください」

「あなたは『真珠のなる木』」

「あなたは『燃えない皮の上着』」

「あなたは『竜の持っている玉』」

「あなたは『燕の巣にある貝』」

だれも見ることがない物ばかりです。

五人の若者は、みんな困りました。でも、

なんとか、かぐや姫の欲しい物を持ってきて、

姫と結婚したいと思いました。



つばめ す かい  
燕の巣にある貝



りゅう も たま  
竜の持っている玉



それから三年経ちました。

一人の若者が「真珠のなる木」を持ってきました。それは、ぴかぴか光ってとてもきれいでした。

若者は、かぐや姫に言いました。

「これは、私が遠い外国で見つけたものです。とても大変でした。さあ、私と結婚してください」



かぐや姫が困っていると、知らない男たちが来て、若者に言いました。

「この木は、私たちが作った物です。三年もかかりました。とても大変でした。でも、





まだお金をもらっていません。  
早くお金を払ってください

若者が「真珠のなる木」を見つけたというのは、嘘だったのです。嘘がわかってしまったので、若者は恥ずかしくなつて、逃げて帰りました。

他の四人の若者もみんな、かぐや姫の欲しい物を持ってくることができませんでした。